

タウンニュース®

施設と自治会「いざ」に備え

火災訓練で連携深める

高齢者福祉施設、飲食店、自治会による合同防災訓練が今月16日、瀬谷消防署協力のもと三ツ境で開かれ、約60人が参加した。

訓練に参画したのは、小規模多機能型居宅介護事業所オリーブ、サービス付き高齢者向け住宅グレース、チャイニーズレストラン風

の音、そして近隣の旭ヶ丘自治会。年1回開かれており、消防署への通報や初期消火、高齢者の避難誘導などを通じ、施設職員と住民の連携を深める狙い。今回の訓練は、出火元を事前に知らせない「ブラインド型」で、施設ごとに行った。オリーブの訓練では1階



煙が充満した部屋を通り抜ける体験も

事務室から出火した。利用者は、職員らにサポートされながら窓や玄関から避難。脱衣場の近くには負傷者の人形が置かれており、職員と住民が毛布でくるんで屋外に連れ出した。講評で消防署員は、煙を吸わないよう強調。実際の現場では煙を吸って「酸化炭素中毒になり死亡するケースが多い」として、「初期消火に失敗したら、火元の部屋の扉を閉めて煙を閉じ込めて下さい」「煙が充満した部屋を通る際は、赤ちゃんのハイハイのように姿勢を低く」などとアドバイスした。オリーブの管理者である吉田香子さんは人数確認が上手く出来たとする。一方、負傷者搬送に改善点があったとした。また、「施設と地域の方々の連携を深められて、有意義な訓練でした」と手ごたえを感じていた。